

# かんちゃん通信

令和元年 12月9日(月)発行 文責：林 寛

## ～もちつき会～

5日(木)は毎年恒例の「もちつき会」を行いました。毎年、お母さん方だけでなく、つき手のボランティアであるお父さん方にもたくさん来ていただき、この行事は成立しています。まずは、お手伝いいただいた皆さんに心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

私は中学生の頃から、筋力だけは強かったため、毎年年末はどこかの家や地域に呼ばれて餅をついていました。就職してからもそうでした。しかし、附属幼稚園に来てからは、若いお父さん方が活躍してくれるため、とても楽になりました。

子どもたちは、つきたてのお餅に大喜びでした。丸めたり、あんこ餅を作って食べたり、年長さんは自分たちも餅つきをしたりして楽しみました。初めて「お餅」という食べ物を食べた子どももいました。たくさんのおもたちが「楽しかった～」と言いながら保育室に帰って行きました。

最近では、地域や学校で餅つきをするところも少なくなってきましたが、餅つきの光景を見ると、もうすぐお正月だなあ、と季節を感じます。機械でついた餅より、人の手をついた餅の方が美味しく感じるのはなぜでしょうか。臼と杵を使い、人の力をついたお餅には、ついた人、準備した人、丸めた人たち等、多くの気持ちが入っているから美味しいのだと思います。

